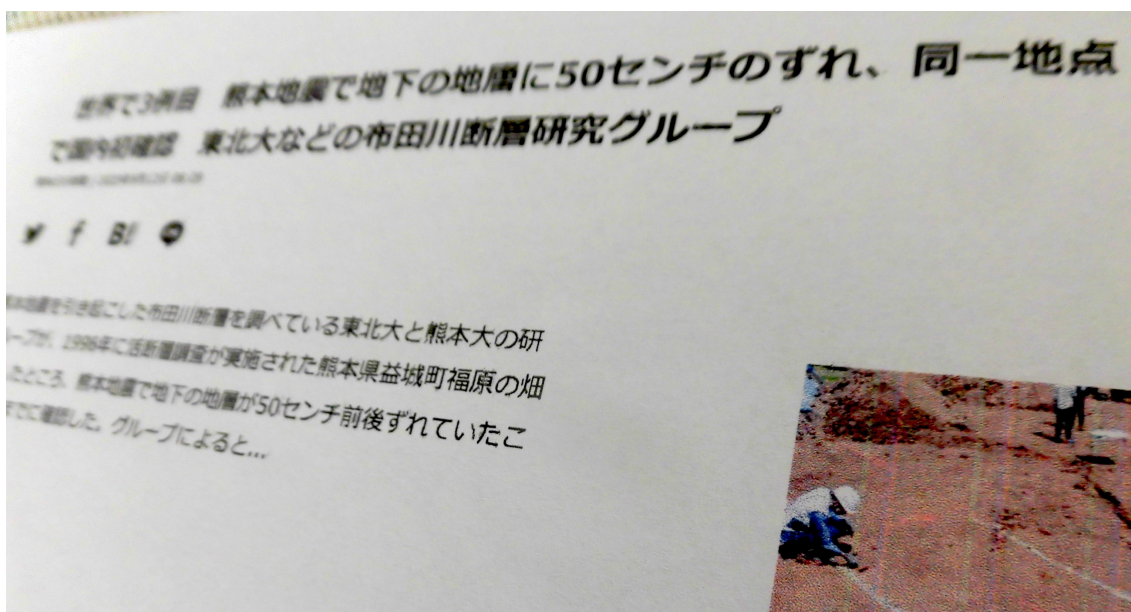


第 99 回 世紀の大発見 !?

I T 生

平成 28 年の熊本地震。その後も、全国各地で地震があり、人々の記憶は薄れつつあるが、そういった一般人の時間間隔とは異なった“地球時間”で生きる、活断層研究者にとっては、まだまだこれから研究は緒についたばかりといったところだろう。

さきごろ、東北大の遠田教授ら研究者グループは、28 年の熊本地震より前に現地で確認していた活断層が、同地震で動いたことを確認した。世界で 3 例目、日本で初確認だという。われわれ一般人は「地震が起きたのだから、活断層が動くのは当たり前だろう」と思うが、地球時間という壮大なタイムスパンで起きた地殻変動を人間が手作業で掘り起こしコツコツ調べ、その地殻変動のしっぽを捕まえたと考え、「世紀の大発見」といってもおかしくはないだろう。



平成 28 年の熊本地震の前に確認された活断層が同地震でさらに動いたことが確認された。現代において活断層の動きがビフォーアフターで確認されたのは国内で初めてだという

阪神大震災以降、全国で活断層の調査が活発化し、現在は、約 2000 の活断層が確認されていると公表されている。しかし、この調査が、「次の地震」への備えになるかどうかは、実際に動いてみなければ分からない。

その意味においては、今回の発見は、これまで、阪神大震災の教訓をもとに取り組みられてきた活断層の調査が「防災上正しかった」ことを示したといってもよいだろう。

われわれはつい、「活断層が確認されたなら、次の地震はいつ起きるのか」と考えがちだが、遠田教授は、「いつ起きるのかという未来予測より、そこに活断層がある事実を目を向けてほしい」と訴える。

日本の都市部は河川流域に形成されているところがほとんどだ。現在確認されている 2000 の活断層は多くの都市部の地下にあることが分かっている。どのような規模の地震が起きたとしても、河川流域の軟弱な堆積層にある都市部は大きな被害を受けることが避けられない。このことを改めて、遠田教授らの研究グループは示してくれたのだと思う。

(令和 5 年 10 月)